

硫黄島

熊野神社と日本史

熊野神社は、和歌山にある熊野三山の祭神を祀った神社。硫黄大権現宮とも呼ばれ、八潮太鼓踊り^Aや九月踊り^Bなど、硫黄島の祭祀に深く関わる。建立約千年の熊野神社は日本史にたびたび登場し、島の営みを世に残してきた。

建立は平安時代の二七七年。俊寛とともに硫黄島に流刑となつた平康頼と藤原成経が、帰京を願ひ、熊野の神々を分霊してこの地に祭つた。翌七八年に赦免船が来て成経と康頼は京へ戻る。翌七九年、残された俊寛は絶食して自害した。

硫黄島の伝承では、俊寛の死から六年後の二八五年、源氏から逃れた八歳の安徳帝が硫黄島に来島する。二〇二二年に二十五歳になつた安徳帝は、熊野神社の境内に大宮を造営して、黒木御所から移り住む。大宮の奥には三種の神器^Cが祭られた。また、大宮が後世に残るようにと翌三年には石の鳥居が設けられた。家来が石探しに出かけ、大分で偶然出会うた平有盛と平行盛^Dが平家物語では二人は既に亡くなつていての寄進で加工した石が島に運ばれたという。

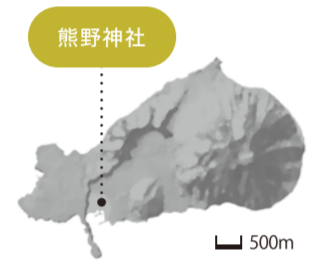
次に熊野神社が歴史に登場するのは室町時代で、僧桂庵玄樹は、一四九九年に島津忠昌が社殿を修復したと記している。また二五九八年朝鮮の役で安徳帝の末裔、長濱権之丞吉延が島津義弘を救つた際には、多くの奉納品が贈られた。社殿の修理費も一八三九年まで計五回分が島津家より出された。

社殿は老朽化で二九八七年に改築され^E、長い歴史の痕は石の鳥居や灯籠に残る。

思い出話

「古い社殿の左手奥の広場は、八潮踊りの踊り手が中休みのときに水浴びする場所でした。あと、社殿に古い刀が納めてあつて、裏手から内緒で持ち出してチャンバラしてました。」

硫黄島地区七〇代男性



1

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1 元日 旧 11/29
2 旧 11/30	3 旧 12/1 ● 新月	4 旧 12/2	5 旧 12/3	6 旧 12/4	7 旧 12/5	8 旧 12/6
9 旧 12/7	10 旧 12/8 ● 上弦 成人の日	11 旧 12/9	12 旧 12/10	13 旧 12/11	14 旧 12/12	15 旧 12/13
16 旧 12/14	17 旧 12/15	18 旧 12/16 ○ 満月	19 旧 12/17	20 旧 12/18	21 旧 12/19	22 旧 12/20
23 旧 12/21	24 旧 12/22	25 旧 12/23 ● 下弦	26 旧 12/24	27 旧 12/25	28 旧 12/26	29 旧 12/27
30 旧 12/28	31 旧 12/29					